



# 樂園の再建

岡山大學教育學部長

坂元彥太郎

—

三年前の私は、學校教育法に幼稚園をどう盛りこむかについて、苦勞というほどでもない、工夫をつけていた頃だ。

「文教の府」とよばれてゐる、役所のさわがしい机から、ふたたび教育の現場に立ちもどつた私は、いまの私の身のまわりを見まわしたり、將來の學園の計畫をしたり、さらにここ数年の動きを静かに思いかえして見る、——といった何か知ら心のゆとりのようなものをとりもどしかけたようである。でも、まだ腰をいれて勉強したり、うちこんでものを書いたりするような氣もちにまでは自分をもつて行けないのである。それでも、私が四年前に當地にいたとき、戰災で焼かれた附屬幼稚園を、この四月から復興しようと、いろいろ畫策している。思えば、いまからまる三年前の「幼兒の教育」にのせた「樂園の復興」という拙文は、あの寒々とした役所の机で走り書したのであつたが、いま私は岡山の靜かな夜に、試験勉強をしていることなどもと向いあつて、この稿のベンをとおあげてゐるのである。

そして、これもまたあの拙文のおわりでとりあげた、岡山の師範の女子部の附屬幼稚園が焼失したそのあとを、再びこの地にくることになつてほんとに偶然にも、私はこれを再興する奇縁にめぐまれたのである。私が四年ほど大阪や東京にさまよつていた間には、この幼稚園が再建されないで、偶然にも私がここの中學部長師範校長として着任するまで、眠つたままで私を待つてくれたような、ふしぎな氣持がしてなら

— 4 —

ないのである。私は、文部省にいるときには、灰となつたあの

桃源境のような幼稚園を復興するようなところで、學校とし

ての幼稚園の位置を確立しよう、この樂園を日本中に復興しようとしたのであつたが、いま、野に下つて、今度は現實にこの幼稚園の再興の仕事が私を持つていようとは、何人が豫期することができたであろう。灰になつたあの幼稚園が、私を招きよせたのだ、といえばあまりにアニミスティックではあるうが、人々が私のこうした心の動きを知らないのをいいことにし、私は平凡な學部長面をして、幼稚園に格好な室をあちこちと物色し、適當な先生をさがしているのである。

何人かの方は、私ができるだけセンチメンタルにおちいらないよう努めているこの文章のうちに、私のふかい心の動きをするべく讀んでいたのであると、私は信じている。

私がとりあえずつくる幼稚園は、昔のそれに比べたら、雲泥の相違があるといつてもいい位を見すばらしい建物をつくる外はない。しかし、私は私の「職權」をひそかに濫用してできるだけの設備をしてやろう、と思う。戰災復舊という名目で國がくれる費用の多くの部分を、この美しい復舊に投げとまうと思う。こんなに楽しい企畫を、幼少のときにこの地にくらされた倉橋禪師（一）をはじめ、私のことを気にかけて下さっている人々にこつそり知らしないでいいものだろうか。感傷家の、美文まがいで書くなぐるくせの私が、何でもかいような顔をして書きつけている気持ちに、せめて微笑でもおくつてもらおうではないか——

## 一一

私が都落ちをして、東京での仕事を中途でやめた多くの心残りのうちで、一番大きいものの一つは、「幼年教育研究會」と別れたことであつた。先にあげた、ストリツクランドさんが、日本に三月の契約で來朝されたのは昭和廿三年の春であつた。インディアナ州で出した『A good start for school』という冊子をすでに讀んでいた私は、同様がその編者の一人であることを知つていていたので心から迎えたのであつたが、その冊子が、幼稚園から小學校三年までのいわゆるブライマリ・グレードのための教育のことを楽しく述べたものであることを思つて、そうした方面的の教育の指導をして下さるようになりつづクリーナーさんにおねがいした。快よく承知された同嬢を中心にして、幼稚園と小學校とを同一施設内に持つ、二つずつの國立、公立、私立の學校の「幼稚園と一年の担任の先生が集まつて」「幼稚園と小學校との連絡」といつた無縫な題目で、指導を受けたのであつた。私は役人としていそがしかつたため、文部省からは三木安正さんに出てもらつていた。數回の會合後、ストリツクランドさんは歸國された。あとはしばらく會合もとだえたが、そのうちの重な方々が熱心にその繼續を申出られた。實は、私自身がそのことを一生懸命にやりたいと思つて矢先なので、前の會に出た方を中心にして、さらにひろく會員をつのつて「幼年教育研究會」をつくつて、昭和廿四年の一月を中心にして數回の研究會や懇談

會を開いたのであつた。

「うのも恥かしいことであるが、役所の仕事がどんなにいそがしからうと、このだけは私の道徳として力を入れて行こうと、心に思つていたのであるが、ついに、都落ちすることになつて、心ならずもその頃の同志を棄てる破目になつたのである。」

「私には、昔からの夢があつた。五歳位から八歳位のことでもたちに、ほんとに教育的にのぞましい環境のもとで、一貫して楽しい生活をおくらせるような、施設をつくることはできぬものであらうか、——とさう、私の漠然たるあこがれなのであるが、それが“*A good start for school*”に美しくも浮きぼりにされてゐるのを読んで、うらやましい限りであつたのだ。日本にも、現實にそうした動きをおこそうと、ささやかな、そして全く民間的な運動をおこしたのであつたが、それが空しくついえたわけなのである。」

「所が、先日その會合が復活して、この間も京橋の常盤校で研究會をやられた、ということを三木氏にきいて、ほんとにうれしくなつた。是非、みんなで繼續して盛りたててやつていただきたいと心から祈るのである。」

「私も、こんどの幼稚園はできるだけ、小學校のすぐ近くに建てようと思う。しかし私はも早や直接いろいろなことを計算したり實施する位置はないのをかなしく思う。」

### 二

幼児教育關係の方の中には、私が五六年前岡山にいたときには、附屬小學校幼稚園の主事であつたように、思つていられる方があるようである。倉橋老禪師も、どうもそららしいしかし、私はその頭師範の女子部長であつて、普通の仕来りではびようたる幼稚園には、入園式「卒園式」以外には用はなかつたわけである。

變な自慢であるが、私は日本のあらゆる種類の學校の長や先生をした経験をもつてゐる。小學校中學校はいうに及ばず盲職學校や専門學校や大學にまで、一應關係しなかつたものはない。ただ、今までになつたことのないものは、幼稚園長と大學長と、それに新制中學校長だけである。私は、實は、幼稚園長をした経験をもたないことを、ほんとに残念に思つてゐるのである。小學校に二つ關係したが、そのいずれにも幼稚園が附設してなかつた。

所で、あの第二次世界戰争がはじまつてから私は岡山に行つたのであつたが、も早や、その頃は、私が一生の仕事と感じていた初等教育の新らしい研究を、ほとんど小學校にもちこむことは出来なくなつてしまつた。それで、戰争が盛である際に唯一の新教育實施のかくれ場として、幼稚園と國民學校低學年との連絡をなめらかにすることを研究する、ということに見出されたのであつた。その両方の主事や先生と話しあつて時には先生を交換したりなどして、少しは研究をすすめたのであつたが、ついに戰災にあつてすべてが灰になつてしまつたのであつた。

でも、戦災の前日まで開園し、警報が出ると、登園していった園児たちには、師範の專攻科の生徒を一人に一人づつ見て退避させていたことなど、思出すると、無茶をしたものだと思つたり、あれでよかつたのだ、とあついものが胸にとみあげてきたりするのである。焼けた直後の、いろいろなもののがたは、とりあげるに忍びない。

私は、ここで焼けて天にのぼつたものを、これから、ふたたび地上によびもどそうと一つの種子をまこうとしている。私自身はそれに没頭することは職務上できいかかも知れないが、道樂としてこの夢を抱きつづけることは許されてもいいと思う。そしてせめて、私の夢を私のまわりの人誰かに、植えつけたい。私の教え子の中から、一人でもこうした方面へ献身するものがでることを心から願つてゐる。

#### 四

教え子といえば、教育學部入學の希望者が少ない、ことに女子が少ないと口實にして、私は、縣下の重だつた女子の高等學校を遊説して歩いた。そして、私は學部には、二年課程があつて相當の收容力があること、ことに女子の入學、ことに幼稚園や小學校の先生になるために女子の方があつて入學されるように、説いてまわつた。そのせいか、今度は相當の志願者がふえたらしい。

また、教育學部の講座も、小學校課程は二ヶ年のコースの場合でも、幼稚園の先生の免許状がもらえるように、講義を

しくんだ。何十人かの女生徒が、幼稚園の免許状がもらえるような、単位を履修している。その生徒たちのために「幼兒心理」「幼兒教育」といつた講義を開くことになつており、私は身のほど知らずと笑われるかも知れないが「幼兒教育」の講義を自分で受持とうとひそかに定めている。あの多くの人々と一緒に苦勞してつくつた「保育要領」などをテキストにして、曲りなりにも私がやろうと思つてゐる。學部長が、こうした題目をとりあげることは、田舎大學であるとしても少々珍風景かも知れない。

私の學部にはつきり幼稚園教員養成の二年課程を設立して、その看板の下に學生を募集することは、まだ内外の情勢から見てその時機ではない。いろいろな理由をここではあげないが、このことは全國すべての大學生ほとんど共通のことだと思う。しかし、小學課程の講義題目のうちに必ず幼兒教育の講義を何ほどかを加えて、希望者にはその方面的勉強がで、教師の免許状がもらえるように仕組むことは、絶対に必要だと思う。各地の幼兒教育關係者が、その土地の教員養成の大學生たり學部なりにつよく希望して、これだけでも、實現させるようにしていただきたいものだと思う。

私は、私どもの學部を卒業もしくは修了した直後に、幼稚園に就職しようというものがあつたら、決してそれを拒まないのであろう。内々ではあるが、文部省の教職員養成課長にこのことを話しても、私の態度がまちがつてゐるとはいわなかつた、ということも書き添えておくことにしよう。

こうしてゐるうちに、いつかは「神機」をつかんで、はつきりとした「幼稚園教員養成課程」の看板をかげるときがくるであろうことを、切に期待し、その機會をねらつてゐる幼稚園教諭の養成を本道にのせるといふ、おそらくこの教育における最大の懸案を何んとかして、解決のいとくちを見つけるようになりたい。

## 五

昭和廿四年七月の、全國保育連合會の新潟における第二回大會での決議として、私が文部省にいた間の仕事について私への感謝のことばがおくられたことは、ほんとに意外なおくりものであつた。私には全くあだらない讃辭であり、はづかしくなつて穴にでも入りたい氣持ちであつたが、それと同時に、幼児保育關係者の厚情が身にしみてうれしかつた。不才不敏で十分なことができなかつたことを、たゞにあげておいて何んだか自分の苦勞が認められたような、われながら身勝手を満足感にひたつたりした私であつた。しかしながら、それと同時に、全國連合の副會長になれといわれたのは、面食をつてしまつた。しかし、皆さんの厚情に感激のあまり、ついさかうが引受けてしまつたが、それ以來、副會長としての仕事などほとんど怠つていて、まことに相すまないことばかりである。でも、倉橋會長の御病氣もなおり、事務局のりつばな方々がそろつておられるので、自分で自分をなぐさめてはいるが、こういうことが長く續くことは、あんまりいいこと

ではないと思い、できるだけ早い機會に何とかしていただきたいと思つてゐる。

こうした、全く個人的なことがらを書きならべて得々としているうぬぼれは相當なものだと、われながらおかしくなつてくるのであるが、最後になつたが、私が幼児教育について感謝状などもらうようにして下さつた人々、大にしては終戦後の幼児教育の方向付けにひそかに貢献された方の名を三人だけあげて、駄文を結ぶことにしたい。

先ず、あげねばならないのは、ヘレン・ヘファナン先生である。ほんとうに日本のこどもと先生を愛された先生は、戰後幼児教育にとつてはこの上もない激励者であり、指導者であつた。「保育要領」の編さんについても、學校教育法の幼稚園の章についても、先生の教えに負う所大なるものがあつた。功績が大であつたばかりでなく、日本人を愛して下さつたことが、人々の胸をうつたのであつた。

前述のストリツクランド女史も滞在が短かかつただけに、狭い範圍ではあるが、幼年の兒童の教育については、新らしい方向の種子をまいて去られた。このお二人とならべるのは如何と思うが、私は、私と一緒に働いた、中谷千藏君（現在は信州大學庶務課長）のかげの努力のことについて一言する機會を是非もちたいと思つてゐた。私の不十分な所を十分に補つてくれたあの縦横の活躍がなかつたら、決して今日私が感謝状などもらることはできなかつたのであり、同君への心からなる感謝で、この文を結びたい。